

# 第1学年国語科学習指導案



平成28年10月28日(金)5校時  
武蔵村山市立第三小学校  
第1学年1組 29名  
主幹教諭 脇坂 ひとみ

**研究主題** 「人との関わりを大切にし、豊かに表現できる児童の育成」  
～グローバル人材育成に向けたオリンピック・パラリンピック教育の充実～

1 単元名 「ほんはともだち むかしばなしが いっぱい」

## 2 単元の目標

日本や外国の昔話を読んだり、読み聞かせを聞いたりして、昔話を紹介することができる。

## 3 単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
日本や外国の昔話を楽しみ、読みたい本を進んで自分で探して読もうとしている。	いろいろな国の昔話を読み、自分の経験や読書体験と結び付けて、それぞれの昔話を紹介している。	昔話のおもしろさや語り口調、言い回しに親しんでいる。

## 4 指導にあたって

### (1) 単元について

本単元は、下記に示す小学校学習指導要領国語の「C読むこと」と「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の指導事項に基づいて設定した。

### C読むこと

- (1) オ 文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、話し合うこと。  
カ 楽しんだり知識を得たりするために、本や文章を選んで読むこと。

### 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」

- ア (ア) 昔話や神話・伝承などの本や文章の読み聞かせを聞いたり、発表し合ったりすること。

今日まで読み継がれている日本や世界の昔話には、弱者が機知を働かせて強者を負かす痛快な話や、無欲で善良な者が結局は幸せになる報恩譚、魔法使いや妖精が登場する奇想天外な話など、楽しくて魅力的な話が数多い。

第1次では、児童に昔話の絵本を読み聞かせして、おもしろい話にたくさん出会わせることで、「本を読むことは楽しい」「自分でも読んでみよう」という自発的な読書意欲の向上を図る。そして、場面絵に注目させ、日本の話であっても現代と時代が違うことや、外国と日本では「着ている服や住んでいる家が違う」など、国によって生活様式や風習が異なることに気付かせる。「どこの国だろう」「この国のことをもっと知りたい」という、いろいろな国の文化に対する興味関心を喚起する。昔話を通して世界にはいろいろな国があり、それぞれの国にそれぞれの文化があるという、1年生の発達段階に応じた異文化理解と異文化を尊重する素地を養っていききたい。

第2次では、自分で友達に紹介したい昔話を決め、どこの国の話か調べ、お話の好きなところなどを

紹介カードにまとめる。

第3次では、紹介カードをもとにまず、グループで紹介し合う。さらにグループで代表を選び、代表者が全体に向けて発表する。友達に紹介する目的をもって、調べまとめたり、相手にお話のおもしろさを伝えるために分かりやすく発表したりする活動を通して、プレゼンテーションの力を養うことができると考える。紹介した昔話の国は班毎の世界地図に貼っていき、視覚的に捉えられるようにする。紹介カードも掲示して活用する。世界地図に表現することで、昔話は日本だけではなく、いろいろな国にあるということを視覚的に分かるようにする。この活動は、シールが貼られている国には「どのような話があるのだろう」と興味を抱いたり、シールがない国には「どのような話があるのかな。」と探す意欲がわいたりすることをねらっている。

## (2) 児童について

1学年の児童は、1学期に学校図書館の利用法を学んでいる。教室でも学級文庫の本を進んで読むなど、自分で読書できる児童が多い。また、読み聞かせは教員の他、保護者ボランティアや上学年児童（読書旬間期間）が実施する機会があり、1年生の児童は楽しく反応しながら聞いている。

国際理解に関しては、1学期に全校で「1班1国旗」の取り組みを行い、生活班で所定の国の国旗を貼り絵で製作する活動を経験した。「この国、知っているよ」「色が似ている国旗がある」などの発言が聞かれた。活動を楽しみながら、児童の世界の国々への関心は高まってきている。また、多くの児童が夏休みに家族と他県へ旅行したり、リオデジャネイロオリンピックを見たりしたことは貴重な経験で、生活圏の外の日本や、外国・世界の存在を知るよい機会となったと考える。オリンピックを見た児童は、「体操男子の一人一人がすごかった」「卓球の選手がかっこよかった」など日本選手の活躍や、全校で参加した人文字が閉会式で放映されたことなど、目にした感動を夏休み新聞に表現していた。反面、「全くオリンピックを見なかった」という児童も1割強在り、世界や外国についての関心や知識・理解に大きな差があることを窺わせる。どの子も日本や世界に関心を持ち、それらを身近に感じられるように、教室に日本地図や世界地図を掲示（視覚化）して活用する。ニュース等に登場した都道府県や外国の、名前・位置を地図で確認し、児童が自然に覚えていけるようにしたい。

## (3) 教材について

本時ではまず、「アラジンと魔法のランプ」の絵本を読み聞かせる。絵本の拡大画面を手掛かりにして、日本のくらしと違うところを見付けさせてワークシートに書かせる。次に、ペアの交流で、どの子も自分の考えを発表し、相手の発表を聞く。互いの考えの相違や発表の仕方のよいところを認め合わせるようにする。そして、全体で発表し合い、より多様な考えに触れさせる。さらに、既習の「おおきなかぶ」の場面絵を提示して見比べさせ、「アラジン」の国（地域）は日本と様子が違うだけでなく、「おおきなかぶ」のロシアとも違うことを実感させる。さらに、世界地図から、世界にはたくさんの国があることを確かめ、それぞれくらしの様子が異なるであろうことに気付かせる。世界の昔話を読むことを通して、さらに多くの国々や多様な文化を知りたいという意欲を育てたいと考える。

## 5 研究主題に迫る手だて

### (1) 研究仮説

〔仮説1〕オリンピック・パラリンピック教育の視点から授業の充実を図ることが、児童の視野を広げ、グローバルな社会を生きる人材となる素地を養うことに繋がるであろう。

〔仮説2〕児童一人一人が分かる授業を展開するために授業作りに授業のユニバーサルデザイン化の手法を取り入れ、ねらいの達成から逆算した授業作りを行えば、児童の学習意欲や主体的に学ぶ態度、豊かな表現力を養うことができるであろう。

### (2) 目指す児童像

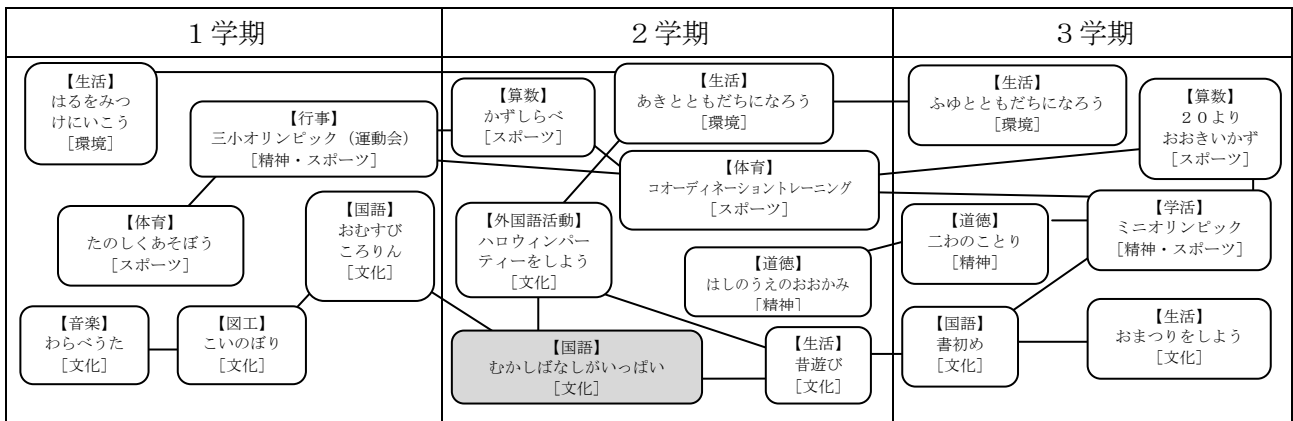
高学年	自他のよさを認め、主体的に相手と関わり合いながら、表現活動を工夫したり、自己の最善を尽くしたりすることができる児童。
中学年	自他のよさを感じ、相手との関わり合いを通して、目標に向かって、主体的に表現できる児童。
低学年	自分のよさを感じ、相手との関わりを大切にして、楽しく表現することができる児童。

### (3) 本単元におけるオリンピック・パラリンピック教育理念との関連

重点的に育成する五つの資質		4つのテーマ×4つのアクション（本時）
豊かな国際感覚	英語力を身に付ける コミュニケーションを図ろうとする意欲 世界の多様性を受け入れる力	文化×学ぶ

### (4) 他単元及び他教科との関連（他教科・他領域や日常的な指導等との関連）

低学年の目指す児童像「自分のよさを感じ、相手との関わりを大切にして、楽しく表現することができる児童」の実現ため、この単元の学習は、下表のような教科横断的なオリンピック・パラリンピック教育の取り組みの一つとする。



1 学期は、図工でのこいのぼりづくりや音楽でのわらべうたなどの活動を通して、日本の伝統的文化を学んできた。また、全校活動として取り組んだ「1 班 1 国旗」や音楽の鑑賞を通して、外国のことについて知る機会も多くあった。リオオリンピックが開催されたこともあり、夏休みの宿題である夏休み新聞では「オリンピックをみたよ」の記事に取り組んだ。

2 学期は、リオオリンピックでみた外国への興味関心を高め、理解を深めるために、国語で日本や外国の昔話を学習し、自分で決めた昔話の題名の紹介とどこの国の話なのかを世界地図に表す活動を設定している。そして、生活科で日本の昔遊びを体験したり、外国語活動で外国の行事について学習・体験

をしたりすることを通して、日本の伝統文化や国際理解をさらに深めていきたい。そして、昔話で作成した世界地図はオリンピック・パラリンピックの参加国や開催国と結び付けて活用していく。地図を用いた活動を取り入れることで、世界中の人がオリンピック・パラリンピックに参加しているという認識と、自分たちもそのうちの一人であるという自覚をもたせていきたい。

3学期には、学活でミニオリンピックを設定している。オリンピック・パラリンピック精神に関する学習を中心にオリンピック・パラリンピックをより身近に感じられる活動にしていきたい。

(5) 本時の指導におけるユニバーサルデザインの視点について

本時の授業計画の組み立て（ねらいの達成から逆算）

授業展開	活動の様子	授業のユニバーサルデザイン視点
ねらいの達成 ↓	外国の昔話の絵本を読んで、その国は日本といろいろな違いがあることに気付く。	○昔話の国と日本との違いを見付けて友達と発表し合って、考えを深められたこと確認させる。 【焦点化】【達成感を味わわせる】 ○違いをいくつも書けた児童には発表の準備をさせる。一つ書けた児童には別の視点に着目させる。書けない児童には見付けた違いを言葉に直して、書かせる。【個人差への対応】
展開後半 ↓	ペアや全体で発表し合い、互いの考えを交流して、確かめる。	○簡単な話型を使い、まず、ペアで発表し合う。自分との考えの相違や相手の発表のよさを伝え合うようにさせる。 【スモールステップ化】 ○全体で発表し合い、多様な考えに触れさせる。【共有化】
展開前半 ↓	読み聞かせを聞き、場面絵などを手掛かりに、日本のくらしと違うところを見付ける。	○絵本を大型画面に映して、児童全員によく見えるようにする。 【視覚化による意欲喚起】 ○話の筋や登場人物の違いが分かるように会話などの読み方を工夫する。 ○場面絵を提示し、違いをワークシートに記入させる。【焦点化】
導入	本時のめあてを提示し、学習内容を正しく捉える。	○授業前に準備を済ませ、机上を整理し全員のスタートを揃える。 【ルールの明確化】 ○既習の「おおきなかぶ」「つるのおんがえし」の場面絵を提示し、前時の学習を想起させる。【視覚化による意欲喚起と課題の焦点化】 ②本時のめあてや授業の流れを提示する。【展開の構造化による意欲喚起】
個別支援	自分の考えを言語表現することが苦手な児童への対応。	・まず、違い指摘させる。それを「何が、どんなだ」の話型を使って、言葉にしてから書かせる。

## 6 単元の指導計画

次	時	学習のねらい	学習活動・予想される児童の考え	評価
1	1	日本の昔話の特徴に気付き、同じ仲間を選ぶ。	教科書の絵を見ながら、知っていたり読んでみたいと思ったりする昔話を出し合う。 ・つるのおんがえし 読み聞かせから、絵や話から服装等の違いに気付く。	・昔話に興味をもち、楽しみながら聞くことができる。 【関心・意欲・態度】 ・昔話の語り口調や言い回し、家や着物など現代との違いを感じることができる。【言語】
	2 本時	昔話を読んで、日本と違うところを見つける。	絵本の読み聞かせを聞いて、その国の服装、家屋、食べ物など日本と違うところを見つけて、話し合う。 ・頭にターバン巻いている。	・自分の経験や読書体験と結び付けて昔話を読み、その国の特徴に気付いている。 【読む】
2	1	昔話の紹介カードの下書きを書く。	読書活動を通して、自分が紹介したい昔話を選び、どこの国の話なのかを調べ、紹介カードを書く。 ・ヘンゼルとグレーテルは、ドイツの話。 ・おかしの家が出てくるところが好き。	・日本や外国の昔話を楽しみ、紹介したい本を進んで自分で探して読もうとしている。 【関心・意欲・態度】 ・昔話の語り口調や言い回し、家や着物など現代との違いを感じることができる。【言語】
	2	昔話の紹介カードを完成させ、紹介の練習をする。	紹介カードを完成させ、練習をする。 ・わたしが紹介する昔話は、～です。これは、～の国の話です。なぜ、このお話を選んだかという～だからです。	・選んだ昔話の紹介カードを完成させ、紹介カードをもとに紹介の練習している。【読む】
3	1	選んだ昔話を友達に紹介する。	自分で選んだ昔話をグループの友達に紹介し、どこの国の昔話なのか地図に表す。  グループの代表1人が全体の前で紹介する。	・自分の選んだ昔話を友達に紹介している。【読む】

## 7 本時の学習

### (1) 本時の目標 (2 / 5 時間扱い)

外国の昔話を読み、日本のくらしとちがうところを見つけて、発表し合うことができる。

### (2) 展開

過程	学習活動と予想される反応 ・予想される反応	●指導上の留意点 ◆個別の配慮 ◎評価【観点】(方法)	☆ユニバーサル デザインの視点
導入 5分	1 本時のめあてを知る。 「アラジンと魔法のランプ」の話を聞くこととめあての確認をする。  むかしばなしをきいて、にほんのくらしとちがうところを見つけよう。	●昔話について「どんなお話か」「どこの国のお話か」を想像させ、お話を聞く意欲を高める。  ●話を知っている子も、静かに聞く約束をする。	掲示物の活用 スタートを揃える 【展開の構造化による意欲喚起】 【ルールの明確化】
	2 絵本の読み聞かせを聞く。 ・静かに聞いている。 ・感嘆や驚きなどの反応をしながら聞いている。	●絵本を大型画面に表示する。 ●絵に注目させながら、登場人物の違いが分かるように読み聞かせをする。 ◎昔話に興味を示し、楽しんで聞いている。 【関心・意欲・態度】(行動観察)	【視覚化による意欲喚起】

	<p>3 日本と違うところを見つけて、ワークシートに書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・違いをいくつも書いている。</li> <li>・一つは書いている。</li> <li>・見付けているが的確に表現できない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●場面絵を黒板に貼り、想起しやすくする。</li> <li>●一文で簡潔に書くようにする。「○○が□□」</li> <li>◆複数書けた児童には発表の準備をさせる。一つ書けた児童には、他の視点に着目させる。未記入の子には違いを指摘させ、「服装が□□だね」など、言葉に直してから書かせる。</li> </ul>	<p>【個人差への対応】</p>
	<p>4 友達と考えを発表し合う。</p> <p>①ペアで発表し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話型を使って、発表している。</li> <li>・ワークシートを読んでいる。</li> </ul> <p>②全体に発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に挙手して、発言する。</li> <li>・友達の発言に関心をもって聞く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●簡単な話型を示す。「日本と違うところを言います。男(女)の人は○○が△△…(複数あれば続けて言う)です。」</li> <li>●話す・聞く際の約束を確かめる。相手を見て、最後まで話す・聞くこと。相手の発表を聞いて、考えの相違や発表のよかったところを伝える。</li> <li>◆考えの相違や自他のいいところを認め合う。</li> <li>◎発表を聞いて自分の考えと比べながら、考えを深めている。【読む】(行動観察)</li> </ul>	<p>【スモールステップ化】</p> <p>【ねらいの焦点化】</p> <p>達成感を味わわせる</p> <p>【共有化】</p>
<p>まとめ 10分</p>	<p>5 本時の学習を振り返る。</p> <p>「おおきなかぶ」の場面絵と比べて、考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・両者の違いを感じ取っている。</li> <li>・世界地図で3つの国の位置を確かめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「アラジンと魔法のランプ」の国は日本とくらしの様子が違うところがいくつもあったこと。</li> <li>●「アラジンと魔法のランプ」の国は「おおきなかぶ」(ロシア)とも様子が違うこと。</li> <li>●たくさんの国があり、いろいろなお話があることに気付かせ、次回の予告をする。</li> </ul>	<p>【共有化に向けた手だて】</p> <p>「おおきなかぶ」場面絵 世界地図(簡便なもの)</p>

8 板書計画

